

「社会保障・税一体改革」をやめさせ、応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年7月21日

北海道社会保障推進協議会

Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

人間らしい生活と労働の保障を！

反貧困全国キャラバン2012 北海道

7/17は札幌で行動

反貧困全国キャラバンが4年ぶりに行われています。今回のテーマは「人間らしい生活と労働を求めて、つながろう！ 地域から餓死・孤立を生まないために」です。キャラバンカーが、東は釧路市から、西は沖縄からスタートしています。7月14日に釧路市をスタートし、帯広市、そして7月17日(火)には札幌で行動が行われ、朝、昼に宣伝行動(25名、35名参加)、北海道と札幌市へ要請行動、夜には集会も行いました。キャラバンカーは10月20日に東京で2台合流し集会が行われます。



生きていけない！ 現場から深刻な貧困の実態告発

札幌集会

札幌集会には125人が参加しました。第1部は、全国公的扶助研究会の渡辺潤事務局長が、「住民の生命を守る砦 ～福祉事務所の現場から～」と、北海学園大学の川村雅則准教授が「雇用・労働はどうなったか？—制度政策の動きを視野に入れて」と題して講演し、第2部は、現場からの7人が報告され、最後に渡辺達生実行委員長が挨拶。貧困をなくすために人間らしい生活と労働の保障を求めて、力をあわせていくことを確認しあいました。



渡辺氏は、福祉事務所では、自分で努力してギリギリで相談にくるケースが多く内容も深刻になっていること。お笑い芸人の母親が生活保護を利用していたことをきっかけに生活保護バッシングが噴出しているが日本の生活保護自給率は低く、「不正」受給も総額の0.38%であること。「扶養問題」では、他国では夫婦間と未成年の子の親だけで、1950年生活保護制定当時、厚生省の幹部が「我が国がまだ個人主義かされていないからである」と解説し、民法上の扶養ではなく、生活保持の義務に移行すると考えていたと紹介し、今行おうとしている厚生労働省の「扶養義務の厳格化」(2012.7.5「生活支援戦略」中間報まとめ)が時代遅れだと批判しました。最後に、自らも参加した「札幌白石姉妹孤立死事件の全国「餓死」「孤立死」問題調査にも触れ、行政の対応によっては、「住民の生命を奪う砦」になってしまうこともあると指摘し、改善を訴えました。

川村氏は、関越道高速バスツアー事故問題を取り上げ、規制緩和で多くの運転手が長時間の労働を強いられていると指摘。雇用の問題では、就職がなかなかできない、しかも就職したとしても有期雇用(非正規雇用)が増えていると強調。派遣村で、派遣労働の規制が求められたが、今年改定された労働者派遣法では大きな前進はなかった。本来、仕事が恒常的なら無期雇用にすべきで、契約が終了する可能性の高いリスクな雇用なら処遇面での保障が必要、雇用や労働のルールの確立が必要と強調しました。そして、雇用や労働の保障が必要で、貧困をなくすことに繋がると説明しました。



【7人の報告】◆「厳しい就労指導に実態について」、生活保護利用している母子家庭の若いお母さん。◆「年金では生活できない」と高齢者。◆「女性の貧困」について支援している方。◆多重債務の現実について支援者。◆「働きたいのに仕事がない」高卒就職の現場について高校教諭。◆「将来展望がみえない」非正規雇用の実態。◆若者に重くのしかかる奨学金など。

就労指導では、仕事をしているが4.5万円のため増収が求められ、2週間に一度「就労活動報告書」で30件と報告すると、「少ない」と生活保護が停止された例や、高校生が母子家庭で母親が10万円程度の賃金だが生活保護を受けていないため、夕方から2件のアルバイトをして、家計をささえている例なども深刻な実態が多く紹介されました。